

防衛大学校訓練部体育係 齊藤陸曹長 第77回国民体育大会(とちぎ国体)銃剣道競技へ出場



防衛大学校訓練部体育係で勤務する齊藤 孝(さいとう たかし)陸曹長は、10月10日スポーツの日を中心に行われる第77回国民体育大会(とちぎ国体)の銃剣道競技成年男子の部に神奈川県代表として出場されます。

長崎県対馬市出身の45歳、銃剣道歴25年超、全国大会で数々のメダルを獲得してきた銃剣道の猛者、齊藤曹長にお話を伺いました。

—今年の国体に出場することになった経緯を教えてください。

国体の県代表は県内各支部から選抜された選手が参加する国体予選で選ばれますが、現役を引退して早5年、当初参加するつもりはありませんでした。しかしながら、学生に対し「常に目標を持ちなさい」と指導している中で、ふと「自分の目標は?」と考えるようになり出場する決意をしました。

普通科連隊で防具の乾く間がないくらいに銃剣道に励んでいた頃の貯金で予選会を突破することはできましたが、体力の低下、勝負勘の鈍りなど、このままでは本大会を勝ち進むことはできない。さらなる稽古が必要だと感じました。

—防大では、どのように練習されているのでしょうか。

校友会銃剣道部の顧問として、平日の夕方2時間程度活動に参加し、学生と一緒に同じメニューを行っています。半分が学生の稽古、もう半分は私の稽古です。

—銃剣道の魅力は何ですか。

銃剣道は、防具を身に付け、木銃で相手の胸、喉などを狙って突くという単純な武道ですが、その中において奥の深い駆け引きがあり、心・技・体の全てが揃わないと勝つことができない競技です。体が大きいから、力が強いから勝つ世界ではないところが魅力の一つです。

「剣心一如」(けんしんいちによ)一剣と心は一心同体、強くなりたければまず心を磨きなさい—この言葉を木銃を握るときにとどまらず、私の人生の座右の銘としています。

—最後に、本大会へ向けての意気込みをお願いします。

45歳という年齢を迎え、伸びしろはほとんどなく、稽古後は身体のあちこちが痛い状態。しかも対戦相手は20代、30代の現役バリバリの自衛官ですが、共に稽古してくれた学生のため、神奈川県のため、防衛大学校のPRのために一試合でも多く勝ち進みたいと思っています。

銃剣道の世界で「先生」と呼ばれるベテランになってもなお、さらに高みを目指して努力を続けられている姿に感銘を受けました。年齢を重ね磨かれた「心」と、数々の激戦の経験により培われた「技」、そして学生との練習で鍛えあげた「体」で、他県の並み居る強豪の剣に果敢に立ち向かってくれるものと期待の膨らむお話でした。

齊藤曹長の初戦は10月9日です。応援をよろしくをお願いします!!

